



## 日本学生陸上競技連合の歩み

クラーク博士の助手が伝授

日本の学生制度が始まったのは1872（明治5年）のこと。当時、札幌農学校へ招かれていたアメリカ人のクラーク博士が助手に命じ、学生に陸上競技を伝授、78年5月に札幌で初めての競技会が開催されたとされています。

東京では83（明治16）年に神田の大学南校（現東大法学部）で学生陸上運動会が開かれた記録があります。その後は各学校校内で愛好者が広がり、20世紀に入ると東京帝大、一高、東京高師、学習院、慶応、早稲田、明治などが集まって対外競技を実施しています。

1911（明治44）年には嘉納治五郎によって大日本体育協会（いまの日本スポーツ協会）が設立され、翌年のストックホルム五輪には東京帝大の三島弥彦が短距離、東京高師の金栗四三がマラソンに初出場しました。

五輪、極東大会への出場は大半が学生競技者だったことから、独立した学生陸上界の統一組織設立の動きが生まれ、19年1月に全国学生陸上競技連合が発足。4月19、20日に東京駒場運動場で東京高師、早稲田、慶応、東農、日本歯科、東大農実の6校が参加して第1回のインターカレッジが開催され、早稲田が優勝しました。

第1回インカレ開催時に連合創立

この後に関西でも同様の動きがあり、東西で実施していた競技会を統合したのが1928（昭和3）年のこと。5月に明治神宮外苑競技場へ秩父宮殿下をお招きし、40校が参加して第1回日本学生陸上競技対校選手権大会が開催され、早稲田が初の栄冠を獲得しました。

この場で日本学生陸上競技連合の設立が宣言され、北海道、東北、北陸、東海、中国、四国、九州、朝鮮、満州が加盟しました。この時、京都大学の中牟田三次郎教授創案の標章を制定。赤い円は日本を象徴、円は同時に統一した力を示し、縦の矢は「向上」を、横の矢は「進展」を示します。真紅は純真無垢、熱血に燃える学生競技者精神を象徴しています。

第二次世界大戦の戦時下、いったん組織を解散、インカレの中止など苦難の時代がありましたが、1947（昭和22）年に連合の復活、天皇賜杯の下賜を受けて5年ぶりにインカレ開催と新時代が到来しました。翌48年からは初めて女子種目が加わり、現在のような男女インカレが実現しました。

戦後の施設不足と地方自治の芽生えからインカレの地方開催が始まり、新潟、明石、千葉、

奈良・橿原神宮、神宮（東京）、西京極、岐阜、神宮、神戸、松本と続き、58年にアジア大会のために新装された東京・国立競技場での開催となりました。

#### 世界学生スポーツ界で確たる地位

52（昭和27）年のヘルシンキ五輪で日本は国際舞台へ復帰し、その後は東西に分裂していた大学スポーツ組織の統合を待ち、59（昭和34）年に設立された国際大学スポーツ連盟（FISU）結成を受けて国内組織の日本ユニバーシアード委員会を設置。五輪と同様に、後のJOC（日本オリンピック委員会）を通じた国庫補助を受けて選手派遣ができるようになりました。

59年に第1回大会が開かれたユニバーシアード・トリノ大会に参加。67（昭和42）年には東京での開催にこぎ着け、陸上競技で金メダル5個を獲得する成果を上げました。85（昭和60）年には神戸、95（平成6）年には福岡でも開催し、世界学生スポーツ界に確たる地位を築いています。

2017（平成28）年8月に開催されたユニバーシアード台北大会では金メダル7個、メダル総数16個と過去最高の成績を残し、国別対抗でも金メダル、メダル総数とも1位という画期的な成果を挙げました。次回のイタリア・ナポリ大会を経て2020年東京五輪へ多くの学生アスリートを送り込むという目標に向け、大きなステップとなりました。

#### 組織運営の近代化と活動の拡大

連合では学生の幹事長、副幹事長、常任幹事らが地区学連を統括しつつ日常業務に当たっています。北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中国四国、九州の8学連の登録学生競技者は2万人を超え、大学スポーツ団体としてはトップクラス。84（昭和59）年に社団法人としての認定を受け、2012（平成24）年には公益社団法人の法人資格を取得しました。

学生陸上競技の「向上と進展」の旗印の下、活動内容の広がりや深化が求められています。主催競技会は日本学生個人選手権、秩父宮賜杯実業団・学生対抗陸上競技大会、天皇賜盃日本学生陸上競技対校選手権大会、出雲全日本大学選抜駅伝競走、全日本大学女子駅伝対校選手権大会、秩父宮賜杯全日本大学駅伝対校選手権大会、全日本大学女子選抜駅伝競走、日本学生ハーフマラソン選手権大会、日本学生女子ハーフマラソン選手権大会、日本学生20km競歩選手権大会を数えます。

ドーピング問題、自然破壊に関わるテーマなど陸上競技を軸とした活動の公益性を高めることなど多くの課題を抱えていますが、発足以来の学生主導の活動はますます盛んになっています。